

大学のビッグバンドジャズサークルにおける 楽譜・音源の保存方法の現状と課題

黒坂 なつき

本研究は、ビッグバンドジャズを中心に活動を行う大学生課外活動団体における楽譜・音源の保存状況を明らかにし、その方法や実態を受けて今後どうしていくべきかを考察、提案したものである。楽譜保存と音源保存の重要性は近年の先行研究でも指摘されてきている。その上で、課外活動で使用する楽譜や演奏した音源の保存について、異なる大学の同様のサークルに絞った研究はなされていないが、大学サークルにおける楽譜・音源の管理や保存は、団体活動の存続や演奏技術の向上の観点から重要であると考えられるため、本研究ではそこに焦点を絞って研究を行った。なお本研究では、ビッグバンドジャズを中心に扱う大学生課外活動団体に対する質問紙調査とインタビュー調査、そして文献調査を行った。

楽譜について、質問紙調査とインタビュー調査の結果から、全ての団体において楽譜は廃棄されていないこと、そして過去に使った楽譜が再演に利用されていることが分かった。しかし、保管方法は団体によって様々であり、完全にデジタルで管理しているところもあれば、デジタル媒体と紙媒体の両方で保管しているところもあることも明らかになった。探しやすさや配布しやすさの面からデジタル媒体での保管が望ましいが、著作権者に許諾をとってデジタル化することを忘れてはならない。管理方法としては、どの楽譜を所持しているかリストアップしてあることが望ましく、リストはデジタルでも紙媒体でもいいが、検索や管理のしやすさからデジタル版が推奨される。また、楽譜の入手や管理を担当する係を設置することで、紛失や重複を効率的に防ぐことが可能となる。楽譜は部室など団員の手が気軽に届くところに保管しておくべきであり、定期的に状態管理をすることが望ましい。

音源に関しては、練習時の音源と本番の音源で回答に違いがみられたため、用途によって使い分けられていることがわかった。練習用の録音は数が多いことが予想されるため担当者が整理して管理しておくほうが無難である。本番の音源については、後世に残しておきたいものであるため、一般公開するにあたっては著作権等の処置をした上で、アナログ媒体は部室に、デジタル媒体は今後継続して利用できそうなクラウドサービスにて保存しておくことが必要である。

楽譜と音源どちらにも言えることとして、今後の展望や現在行なっている取り組みの意図を正しく引き継いでいくことが挙げられる。なぜ楽譜や音源を現状のように管理しているのかが分かれば、この先より良い管理方法が見つかった際にも移行を円滑に行うことができる等のメリットがある。過去を遡るのが難しい団体は、現在の様子やわかっていることを記録し伝えていくことが必要だと考えられる。

今後は、今回調査できなかったデジタル媒体以外での音源保存や、楽譜の著作権保護についても詳しく検討していくことが望まれる。

(指導教員 村田 光司)